

3.11 高校生犠牲者からの 命を守る「伝言」

2011年3月11日東日本大震災で、宮城の小中学生261名が犠牲となりました。震災の翌年、小学校教員で、宮城県教職員組合の委員長になった私は、この261名の被災状況を様々な方に協力いただいて調査し教訓をまとめることができました（注）。一方、宮城の公立高校生は87名が犠牲となっていました。その状況は調査されずにいました。小学校教員を定年退職し2020年にみやぎ教育文化研究センターに勤めた私は、高校生87名の被災状況の調査を始めました。4年かかってようやくその調査結果がまとまりました。ご協力ありがとうございました。高校生の命を懸けた教訓を未来に活かしてほしいと願っています。

高校生の皆さん！ 生きたかったのに突然命を奪われた高校生の「伝言」を受け取ってください。先生方、ぜひ教え子に犠牲となった高校生の「いのち=こころ」を伝えてください。

更新 新しくわかった高校生の情報等を追加しました。

高橋達郎

（注）宮城県教職員組合発行『子どもの「いのち」を守りぬくために』（2014年9月）



石巻西高 慰霊碑より

「～時は移り、人は代わっていきます。衝撃的であった震災の記憶も、いつか風化する定めにあります。やがて震災への記憶が途絶え、災害に無防備になることが危ぶまれます。この碑は、東日本大震災の甚大な被害を永く記憶し、次の世代に伝えることを目的として建立されるものです。～」

（11本の石柱は亡くなった9名の高校生と入学予定の中学生2名を表している）

常磐山元自動車学校 慰霊碑より

「～当時、海岸から約750mというこの地にあった常磐山元自動車学校で教習を受けていた教習生26名と勤務していた役員及び従業員11名は、地震後も自動車学校の業務が継続され、教習の再開も検討されたが、この地からの避難が行われなかった結果、同日午後3時50頃に到達した大津波の犠牲となった。2度とこのような悲劇が繰り返されないことを願い、この地で犠牲となった全員の冥福を祈り、ここに慰霊の碑を建立する。」



調査に協力してくれた高校教員の話

もし、この東日本大震災がなかったら、被災した多くの若者は、これからたくさんのお話を学び、たくさんの素晴らしい人生を歩むことができたろう。震災によって多くの犠牲となった、生きてくても生きられなかった多くの若者たちのためにも、この深い悲しみは決して忘れてはならない。

犠牲者が出た公立高校35校と犠牲者数

※ 宮城県教育委員会開示文書より作成

宮城県で津波が校舎にまで浸水した高校は4校（向洋・宮城水産・石巻女子商・宮城農業）ですが、犠牲者が出た高校は35校（公立高校の44%）に及びます。通学区域が広域化し、津波防災教育は沿岸部だけの課題ではありません。



向洋高校



南三陸防災庁舎



大川小



雄勝公民館



農業高校



常磐山元自動車学校

当時の学校数	犠牲者が出た学校数	割合
小学校 437校	33校 (186名)	7.55%
中学校 214校	22校 (75名)	10.28%
高校 80校	35校 (87名)	43.75%



3.11 東日本大震災 宮城の高校生犠牲者状況調査

高校生の生きたかった希望と 家族の嘆き・悲しみ

調査について

※ 調査期間 2020年4月～2024年10月

※ 調査方法 ①県教育委員会に文書開示請求⇒「文書不存在」の回答

その後、県教委が学校名と犠牲者数、学年を文書開示

②その該当高校に、アンケートによる調査を数回実施

③また該当高校に当時勤務していた教職員等からの聞き取り

④震災を扱った新聞記事や書籍等から分かったこと

以上のことから判明した被災状況等をまとめました。

※ イニシャルは、氏、名の順。名前のイニシャルの読み方は推定です。

※ 調査の過程で宮城県内の私立高校生の犠牲も判明(No.88)。県内すべての私立高校に問い合わせをしましたが、ほかの犠牲者については分かりませんでした。

※ 被災状況は、津波被災の性質上、伝聞情報が多くあります。誤りや新情報があれば、ぜひお知らせください。

【気仙沼市】

- 1 **気仙沼1年** 状況不明。※気仙沼高校から「当時を知る教員も少なく、回答できません」と連絡あり。
- 2 **気仙沼西2年Y・Rさん?** 自宅学習日で、状況不明。
- 3 **本吉響3年M・Sさん** 気仙沼市 鹿折地区 JR線で3年間通学。自宅で母親、兄と共に津波に巻き込まれた。火災発生地域で、鎮火後遺体が発見、身元が確認された。
- 4 **気仙沼向洋1年F・Hさん** 気仙沼市 本吉地区 写真部で活躍。自宅にいて大津波警報で近くの高台に母親、祖母と共に避難。高台まで津波が到達し流された。母親のみが救出された。2か月過ぎた5月に遺体が発見され身元が確認された。
- 5 **米谷工業2年** 沿岸部の自宅で被災。

【南三陸町】

- 6 **志津川2年** 志津川 一旦高台に避難、祖父を心配し、自宅に戻る途中で津波に襲われた。

- 7 **志津川1年** 志津川 津波警報が発令されていたが、自宅からは海が見えず、自宅まで津波は来ないだろうと思い、自宅に留まって被災。
- 8 **志津川2年** 志津川町内の自宅まで来ないだろうと留まっていたが、自宅ごと流された。

【女川町】

- 9 **石巻西1年S・Gさん** サッカー一部活終了後、女川駅で降り帰宅途中で被災。普段親が「何かあったら祖母を助けて」と言っていて、両親は心を痛め悔やむ。
- 10 **宮城水産3年H・Nさん** 自宅の船を沖出ししようとして海に行き津波に襲われた。
- 11 **宮城水産3年N・Kさん** H・Nさんと船を沖出ししようとして津波に襲われた。
- 12 **石巻商1年S・Sさん** 部活後14時45分に女川駅に着き帰宅。自宅で被災。
- 13 **石巻商2年K・Rさん** バレーボール部活後、女川駅に着き、自宅で母と被災。
- 14 **石巻商3年Y・Kさん** 野球部。祖父と漁港でアルバイト中に津波に襲われた。

- 15 石巻2年M・Mさん 当日は授業日で7校時だったが、その日に限って体調不良で欠席、家族と避難途中で被災。「出席して学校にいたら助かった」と家族後悔。
- 16 石巻市女子3年 女川の自宅の瓦礫から遺体が発見された。

【石巻市 大川地区】

- 17 石巻西3年K・Mさん 演劇部。明るくていつも笑顔。自宅で祖父母、妹と大川小6年の弟の帰りを待っていて被災。一家5名犠牲。
- 18 石巻商2年K・Rさん 吹奏楽部。祖父母と姉(K・Mさん)と自宅で、弟は大川小で被災。努力家だった。
- 19 石巻西3年T・Rさん 自宅で被災。サッカー部。
- 20 石巻西2年T・Kさん 自宅で仕事を休んでいた母と2人家ごと流失。
- 21 石巻好文館3年T・Sさん? 母と大川小に避難。祖母も死亡。4月自衛隊入隊予定。後日、自衛隊から制服姿の合成写真が送られ遺影となった。
- 22 宮城水産1年S・Tさん 母と一緒に大川小に弟を迎えに行き津波に襲われた。
- 23 石巻商3年F・Yさん バレーボール部。自宅で母、妹、祖父母と津波に襲われた。
- 24 石巻商3年S・Yさん バレーボール部。自宅で母の帰りを待っていて津波に襲われた。母「絶対に誰かを待たずに逃げて」と話す。
- 25 石巻商3年K・Sさん 自宅で被災。
- 26 石巻北3年O・Tさん 自宅から弟を保育園に迎えに行った時に北上川河口付近で被災。
- 27 石巻北2年T・Tさん 大川の自宅で被災。しばらく行方不明だった。

【石巻市】

- 28 石巻西3年S・Hさん ソフトテニス部。免許を取得、車を運転し渡波のスーパーに買い物に来て車で避難途中で津波に襲われた。
- 29 石巻西2年K・Sさん 渡波 当日弓道部活動を休んで自宅にいた。祖母を2階に助けあげようとして津波に。「もし部活で学校に行っていたら助かった」と親は悔やむ。責任感の強い生徒だった。
- 30 石巻好文館2年男子 部活後友達と下校中に友達と津波に。友達は助かった。学校管

理下扱い。

- 31 石巻商1年K・Yさん 渡波 軟式野球部。自宅で津波に襲われた。
- 32 石巻商1年K・Mさん 小浜 病院通院後、母の車で帰宅途中で被災。
- 33 石巻商2年O・Kさん 自宅から一旦高台に避難したが、吹奏楽部でトランペットを取りに自宅に戻り津波に。簿記の資格を取り、金融関係の仕事に就くことを希望していた。
- 34 宮城水産2年S・Kさん 渡波。自宅で流され行方不明だったが後日発見された。
- 35 石巻工3年K・Mさん 一度避難したが、飼っていた犬を連れ戻しに自宅に戻って被災。
- 36 石巻市女子3年 コンビニでアルバイト中に地震。一度帰宅したが、給料日で再び店に戻り、その後に帰宅途中で被災。
- 37 石巻女子商2年 集合住宅の1階自宅で津波が押し寄せて被災。
- 38 石巻女子商2年 渡波 自宅で被災。
- 39 石巻女子商1年K・Kさん 学校から母の車で帰宅途中で被災。母は助かった。
- 40 石巻女子商1年 状況不明。
- 41 石巻女子商1年 状況不明。
- 42 石巻工3年男子 谷川浜の自宅で被災。

【東松島市】

- 43 仙台三2年女子 鳴瀬 自宅にいて、連れ出そうとしたのか祖父と手を握ったまま発見された。
- 44 塩釜3年A・Sさん 野蒜 アルバイト先で地震。祖父母、母、妹を心配し自宅に戻る途中で。家族5人が犠牲に。明るく友達思い。卒業式総代だった。専門学校への進学が決まっていた。
- 45 塩釜2年 野蒜 状況不明。
- 46 石巻西2年H・Aさん 野蒜 祖父の車で避難途中で津波に。茶道部で成績優秀。当日、学校で自習。その後帰宅、「学校にいれば助かった」と親は悔やむ。
- 47 石巻西3年A・Mさん 赤井 自宅で。空手道部でまじめな生徒だった。
- 48 石巻西2年D・Mさん 野蒜 自宅付近で津波に。母の勤め先「かんぼの宿に来れば助かった」と母親が悔やむ。
- 49 東松島1年男子 自宅ごと流された。

- 50 東松島1年女子 自宅で被災。
- 51 東松島3年女子 避難途中で流された。
- 52 石巻北3年Y・Tさん 東松島市大曲の自宅で被災。生徒会長だった。造船所に就職内定していた。山形県で火葬。
- 53 石巻北3年N・Mさん 東松島市大曲の自宅で、祖母、母（PTA役員）、弟と一緒に被災。縫製会社に就職内定していた。
- 54 石巻北2年A・Rさん 東松島市大曲の自宅で被災した。しばらく状況不明で3年教室には机を配置していた。
- 55 石巻北2年K・Mさん しばらく状況不明で3年教室には机を配置していた。

【松島町・塩釜市・多賀城市・七ヶ浜町】—

- 56 松島2年I・Yさん？ 七ヶ浜 学校から「文書による記録なし」と回答あり 状況不明。
- 57 松島2年A・Hさん？ 七ヶ浜 状況不明。
- 58 貞山（定）4年 行方不明 仙台港近くのコンビニでアルバイト中に津波に襲われた。
- 59 宮城野3年K・Hさん 多賀城のコンビニでアルバイト中。店長は不在で妹と2人で勤務、地震後の後片付け中に津波に。妹は助かり、本人は10日後に発見。責任感の強い子で店の物品金銭が心配で避難が遅れた。地裁で和解。

【仙台市】—

- 60 貞山（定）4年 宮城野区蒲生 自宅で津波に直撃を受けた。
- 61 仙台市工2年男子 宮城野区蒲生 自宅に父親が戻り、車で避難途中で被災。
- 62 利府1年S・Sさん 宮城野区岡田の自宅にいて、隣人の車で避難中に津波に襲われた。
- 63 宮城第一3年Y・Rさん 名取市閑上 自宅にいて、祖母・母・本人・妹と車で避難中に津波に襲われた。なお、父親は当時東京に単身赴任中であつた。震災の1週間後、自宅から数キロ離れたところで車が発見され、家族の遺体もすべて発見された。

【名取市・岩沼市】—

- 64 名取（定）4年 状況不明。学校からは「資料無し」と回答あり。
- 65 仙台南2年女子 当日は自宅学習日。名取市閑上の自宅で津波の犠牲。学校からは「防

災学習時、亡くなったことを講話で話している」と回答。

- 66 名取北2年I・Eさん 名取市閑上 自宅に父、母、兄、本人がいて、父の指示で兄は2階に上がって助かる。父母本人が津波に襲われた。
- 67 名取北2年K・Tさん 名取市閑上 小学校から中学校に避難途中で自宅に戻り兄と共に犠牲に。
- 68 農業3年 名取市閑上 自宅で被災。
- 69 農業2年 名取市閑上 自宅で被災。
- 70 県工業3年S・Sさん 祖母は空港ビルに避難。本人は自宅にいて祖父をつれて避難しようとして津波に襲われた。
- 71 農業3年 岩沼 自宅で被災。
- 72 仙台東3年K・Yさん？ 岩沼 状況不明。犬を連れて自転車避難する姿が目撃されていた。

【亶理町・山元町】—

※亶理高校から、「学校として記録がなく状況は伝わっていない」と回答あり。

- 73 亶理3年 状況不明。
- 74 亶理3年 状況不明。
- 75 亶理2年 状況不明。
- 76 亶理2年 状況不明。
- 77 亶理3年 行方不明 状況不明。

【常磐山元自動車学校での被災】—

- 78 仙台三桜3年S・Aさん 内陸部で路上教習中に地震。学校に連れ戻され帰りのバスは割り当てられず、徒歩で帰宅途中で津波に襲われた。
- 79 仙台三桜3年S・Mさん（同上）路上教習中に地震。学校に連れ戻され徒歩で帰宅途中の路上で津波に。医療事務の仕事が夢で、4月から仙台市内の専門学校に入学予定。
- 80 柴田農林3年O・Tさん 送迎バス6号車で帰宅途中の路上で津波に襲われた。
- 81 伊具3年Y・Tさん 送迎バス7号車で被災。
- 82 亶理3年N・Rさん 送迎バス6号車で被災。
- 83 亶理3年H・Kさん 送迎バス6号車で被災。母「あの日教習所に送り出さなければ」と悔やむ。就職祝いに2人でスーツを買いに出かけ、送迎バス停に送り届けた。地震後、父が携帯を鳴らし続け、4時10分ごろ一度だけつながり「うーうー」と声が聞こえた。6日

後の17日遺体で発見された。「どんな人と結婚するのだろうと楽しみにしていた」と母。

- 84 亘理3年K・Sさん 送迎バス6号車で被災。
- 85 亘理3年N・Nさん 送迎バス6号車で被災。
- 86 白石工3年N・Mさん 送迎バス6号車で被災。
- 87 亘理3年? I・Sさん 自動車学校で被災。
-以上宮城県の公立高校生-



常磐山元自動車学校の送迎車のルート
(2011.10.14 朝日新聞)より

88 私立東北学院3年S・Kさん 送迎バス6号車で被災。ボランティアに参加と活発に活動、4月には東北薬科大学入学予定。

※ 福島県 高校生14名 大学生1名

- ① O・Yさん (学法松栄 4号車)
- ② K・Mさん (相馬東 4号車)
- ③ S・Sさん (新地 4号車)
- ④ A・Hさん (新地 4号車)
- ⑤ H・Sさん (新地 4号車)
- ⑥ K・Mさん (新地 4号車)
- ⑦ O・Mさん (新地 4号車)
- ⑧ M・Tさん (新地 4号車)
- ⑨ T・Rさん (相馬東 4号車)
- ⑩ K・Yさん (新地 5号車)
- ⑪ M・Mさん (小高工業 5号車)
- ⑫ K・Mさん (新地 5号車)
- ⑬ T・Hさん (相馬 5号車)
- ⑭ Y・Mさん (相馬東 7号車)

大学生T・Yさん (東北工業大学 4号車)
父「息子はもう戻ってこない。学校や勤務先で危機管理を徹底してほしい」

(以上、常磐山元自動車学校での津波犠牲者)
(教習生26名 学校職員11名 計37名)

☆ 裁判で和解 学校側が謝罪

「教習生には落ち度はなく、学校側が非難マニュアルを策定せず、震災当日に避難指示を出さなかったことが犠牲者を生んだ。」

犠牲となられたみなさんのご冥福をお祈りします。

【近現代の地震・津波による被害の歴史】

- 1896年 6月15日 明治三陸大津波 死者22,000人 震度2 津波高25m
- 1923年 9月1日 大正関東大地震・津波 熱海で12m 死者数100人
- 1933年 3月3日 昭和三陸大津波 死者3,000人 震度5 津波高15m
- 1944年 12月7日 東南海地震津波 死者3,000人 津波高8m
- 1946年 12月21日 南海地震津波 死者1,300人 津波高6m
- 1960年 5月23日 チリ地震津波 太平洋を越えて襲来 死者142人 津波高6m
- 1983年 5月26日 日本海中部地震・津波 死者104名 津波高6m
※ 山間部から遠足で海に来ていた小学生13名犠牲
- 1993年 7月12日 北海道南西沖地震奥尻島津波 死者98人 津波高17m
- 2011年 3月11日 東日本大震災 死者・行方不明18,423人 震度7 津波高30m
- 2024年 11月1日 能登半島地震 2024年3月末時点死者241人 震度7 津波高5m

「なぜ命を守ることができなかったのか？」痛恨の「失敗」から学ぶ

津波避難の悲劇を繰り返さない！

「3.11 高校生犠牲者状況調査」から分かった8つの教訓

2011年3月11日。その日、高校は？

宮城の公立高校は、入試合否判定業務の日にあたり、1・2年生は「自宅学習日」、部活動や補習等で学校に来ていた生徒もいた。3年生は卒業式を終え、自宅や地域で4月からの新生活の準備などをして過ごしていた。そこに突然の大地震、その後津波が沿岸部を襲ってきた。

教訓1

4割が自宅で、3割が避難途中で被災した！

「自宅で被災」が最も多く36名。避難途中での被災も27名。逃げなかったのか？ 避難が遅れたのか？ 沿岸部で長く大きな地震を感じたら津波を考え、直ちに高台へ避難を！ さらに地域の「率先避難者」になり、地域住民へ避難の呼びかけを行えば、自らの命はもちろん、多くの命が救える！

教訓2

「祖父母を案じて」「家族を心配して」自宅に留まり戻る事例が多くあった。

高校生は、体力もあり家族のたよりにされていた。家族と共に避難しようとして被災した事例もあった。高齢者・家族の避難のあり方が問われる。災害時の避難について家族で話し合いが必要。「津波てんでんこ」（それぞれに避難すること）。

教訓3

「部活の忘れ物を取りに戻る」「ペットを連れに戻る」「海に船を見に行く」などで被災！

津波避難の原則は「一度避難したら戻らない」「引き返さない」「海や河川を見に行かない」。

教訓4

「車で避難中に」被災が6名。

居住地域での車避難について検討が必要。車による避難は渋滞の危険がある。18歳になり免許を取得し、車による避難中に犠牲となった生徒。

教訓5

同じ場所での最大の犠牲は、「常磐山元自動車学校」での被災。

教習生26名が犠牲、うち宮城の高校生11名、福島の高中生14名。「学校」は沿岸部にも関わらず、避難計画も避難マニュアルも備えていなかった。

教訓6

地域的には北上川下流部、石巻市大川地区の犠牲が多く、11名。

津波は川を上って襲ってくる！ 河川遡上津波の理解が必要。大きな河川がある地域は危険！ 上流からも津波が襲うことがある！

教訓7

高校生特有の状況としては、アルバイト中の被災が5件。

5名のうちコンビニアルバイト中の被災が3名。仕事の責任を感じ「避難できない」「店に留まる」。災害時、商品・ATMなどをどうするか。アルバイトを始めるとき、雇用主に災害対応を確認する必要がある。災害からの避難は従業員の権利であり、緊急避難として認められる。

教訓8

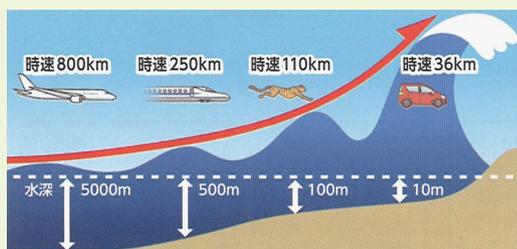
海岸から離れた内陸に位置する高校でも犠牲者が出た。4割の高校で犠牲者！！

宮城県は高校全県一学区でどこの学校でも、津波避難の原則を学び、通学路上の災害の認識が必要。下校中の災害で「学校管理下」と認定された高校生3名。当日、部活や補習があり、保護者への「引き渡し」も行われた。その途中で被災した事例もある。高校での「保護者引き渡し」も課題。

地震・津波は全国どこでも起きる！ いつ起きるかはわからない！

- 2022年12月 政府による「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用開始！
- 2024年1月16日 地震調査委員会により30年以内にマグニチュード7クラスの宮城県沖地震の発生確率が70%から90%に引き上げられた！
- 現在、首都直下型地震、東海地震、東南海地震、南海地震と大津波の予測！

3.11 高校生からの命を守る「伝言」



- 地震を感じたら、スマホ等で情報をとれ！
- 海の近くで強い地震、「避難スイッチ」を入れる！
- 想定にとらわれるな！
- 想定外の津波が来るかもしれない！
- 「自分は大丈夫」ではない！
「自分は大事」というバイアスを超えろ！

- 津波は速い！ 全力疾走で高台へ逃げろ
- 津波は、川をさかのぼって襲って来る！
- 忘れ物をして、命が一番、絶対に戻るな！
- 地域での率先避難者になれ！
君の避難がみんなの命を救う！
- 自分の命をまず守れ！
「津波てんでんこ」（それぞれ避難せよ）
- 家族の避難は、日ごろから話し合っておく！



- 誰かを待っていてはいけない！
- バイト先での災害対応は、初日に雇用主に確認せよ！
- 人がたくさん集まる場所では、避難経路を確認せよ！



発行 2025年11月 更新
発行者 高橋 達郎
連絡先 みやぎ教育文化研究センター
〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45
フォレスト仙台4F
TEL 022-301-2403
e-mail mkbkc@forestsendai.jp
協力 宮城県高等学校・障害児学校教職員組合

